

平成 26 年度 長生園デイサービスセンター事業報告

《概要》

介護保険制度による『通所介護』『介護予防通所介護』事業を「通常規模型」で実施して参りました。

サービス提供時間は昨年度に引き続き、6 時間 15 分（9：30～15：45）と 7 時間 15 分（9：15～16：45）にて取り組んで参りました。

利用状況の傾向としては、6 時間 15 分（7-9 枠）を希望される方が全体の 8 割近くを占めております。

また、公的外サービスとして介護保険外の利用受入もありました。

公的外サービスを利用される方の傾向としては、限度額を超えてしまう方の経済的負担軽減での利用が最も多く、若干ですが公的外サービス単体での利用がありました。

利用例として、要支援 2→要支援 1 になり当該事業所から利用回数を減らされた部分を長生園デイの公的外サービスにて補いたいとの依頼でした。

1. 利用者の状況

| 事業別 | 実利用者月平均 | 月間延べ利用者平均 | 年間延べ利用者数 |
|--------------|---------|-----------|----------|
| ① 通所介護事業 | 39 | 398.3 | 4779 |
| ② 介護予防通所介護事業 | 11 | 47.4 | 569 |
| ③ 公的外サービス | 12 | 8.8 | 105 |

介護保険実績推移（過去 3 年比較）

<26 年度>①4779 人+②569 人=5348 人

<25 年度>①4553 人+②723 人=5276 人

<24 年度>①4551 人+②756 人=5307 人

(延べ)

| 利用時間別 | 6 時間 15 分 | 7 時間 15 分 |
|--------------|-----------|-----------|
| ① 通所介護事業 | 3774 | 1005 |
| ② 介護予防通所介護事業 | 553 | 16 |
| ③ 公的外サービス | 51 | 54 |
| 合 計 | 4378 | 1075 |

□レクリエーション（担当：郡司）

当センターは地域の環境に恵まれており、利用者への移動の負担も少なく近隣公園等への散策が行えました。

日常的に行うレクリエーションは全職員に係る体制（日替わり当番）を行う事で、職員が責任感を持って取り組む事が出来たと考えます。

また、職員全員が考える事でレクリエーションの内容も充実してきたと思われます。

夏祭・運動会は利用者から好評でしたので、次回は更に盛り上がりのあるレクリエーションを提案したいと考えています。



□個別機能訓練（担当：馬込）

当センターでは「個別機能訓練加算」を算定しておりませんが、各利用者には個別援助計画に沿って個別機能訓練計画書を作成し、個々のニーズに応じた訓練の実施に努めて参りました。

午前中はOTによる徒手療法や可動域訓練を中心にホットパックやエアレックマッサージ器の取り組みを行い、利用者個人に対する的確な見極めや職員に対する助言指導を受ける事が出来ました。



□地域交流会（担当：児玉）

櫛地区社会福祉協議会・中央東櫛北包括支援センターの依頼にて、「山崎地区ふれあいサロン」の場所提供及び体操やレクリエーション・看護師による健康チェック（バイタル測定）等を実施しました。

通常営業日にてデイ利用者も利用されており、地域住民との交流の機会になったと思われます。

また、宮崎北警察署へ協力をお願いし、地域住民を対象とした交通安全教室を開催しております。



□リスクマネジメント（担当：児玉）

26年度に発生した事故の内訳としては以下の通りです。

| 項目 | 件数 | 備考 |
|--------|----|---------------------------------|
| 体調急変 | 2 | 利用者個々の体調による |
| 負傷事故 | 3 | 事業所内での転倒等（利用者が負傷） |
| 交通事故 | 0 | 送迎中における物損事故 |
| ヒヤリハット | 21 | 事故には至らなかったが、負傷事故の危険性があると判断される案件 |

26年度は5件の利用者に係る事故（急変含む）と21件のヒヤリハットが発生しております。

事故の件数は一昨年より5件少なく、ヒヤリハットが6件多く報告されました。

リスクマネジメント研修やミーティングでの注意喚起を行う事で、職員の意識が向上し、自発的な報告と他職員への周知を行う事が出来た事で、結果的に負傷事故が少なくなったと推測します。

また、事故・急変への対応能力に置いては各分野（看護・介護・相談員）の職員が連携して対応する事が出来たと考えます。

負傷事故の内容としては皮膚剥離（2件）・爪切りによる出血（1件）でした。

ヒヤリハットでは送迎中における車椅子固定器の緩み・半ドアなど、一つ間違えると重大な事故なる事案もありました。

また、同様のヒヤ

リ報告が上がる事もあり、注意徹底が不十分な点も反省点としてあげられます。

防災訓練では東北大震災を教訓に津波被害を想定して避難訓練の他、火災を想定した初期消火訓練を行なうなど防災意識の向上に努めて参りました。

